

## 安保法成立 民主主義の行方は

表題は朝日新聞 9 月 27 日の長谷部恭男・早稲田大教授と杉田敦・法政大教授の「考  
x 論」である。印象に残った発言を一部だけでも紹介していきたい。

(長谷部) 少なくとも、集団的自衛権の行使は憲法上許され  
ないという、9 条解釈のコンセンサス (合意) は崩れて  
いません。法律問題が生じた時、ほとんどは条文を読めば  
白黒の判断がつかますが、9 条のように条文だけで結論を  
決められない問題が時々出てくる。その時、答えを決める  
のは、長年議論を積み重ねた末に到達した「法律家共同体」  
のコンセンサスです。今後も、去年の閣議決定は間違いだ、  
元に戻せと、あらゆる機会と手段を使って言い続けていく  
ことになります。

(杉田) 与党は今回、議会運営上の慣例を色々と壊し、野  
党の質問時間さえ数の力で奪った。最終局面の大きな論点  
は、法制への賛否以前に、「こんなやり方が許されるのか」  
だったと思います。憲法は無視、議会の慣例も破壊する。これは、権力の暴走に歯止め  
をかけるという立憲主義の精神に反する「非立憲」です。「立憲」か「非立憲」か。こ  
れまで十分に可視化されていなかった日本社会の対立軸が、今回はからずも見えてきま  
した。

(長谷部) そして予想以上に、日本には立憲主義者がいた。抗議デモに参加した人た  
ちだけでなく、法制は必要だという人たちにも、憲法の重要性や、権利を縛る立憲主義  
の意義についての認識が広まった。安倍政権の「教育効果」は大きかったと言えます。

(杉田) 非立憲主義者は、政策的に必要なだと政治が判断すれば、法や慣例を破っても  
構わないとする。それも一つの立場だが、「あなたは非立憲主義者だ」と自覚を促す必  
要があります。「右/左」「保守/革新」というものさしではかれなかった関係が、「立  
憲/非立憲」ですっきり整理される。日本政治の見通しがずいぶん良くなります。

(長谷部) 立憲主義者だけでなく、日本に多くの共和主義者がいたことも発見でした。  
デモに行くのは、選挙に行くよりはるかに時間とコストがかかる。それでも世のために、  
声をあげなければならないと思う個人がたくさんいた。自分の利益を脇において、公共の利益の  
ために身を捧げる。まさに共和主義です。組織や団体の動員ではなく、自分の判断で動  
いているから、今後も声は上がり続けるでしょう。日本の希望だと思います。



(2015 年 10 月 1 日)